
1982年1月22日

鎌田悪石

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

1982年1月22日

【Nコード】

N0382H

【作者名】

鎌田悪石

【あらすじ】

1982年シーズン開幕前、上層部の権力乱用に怒ったドライバー達が、ストライキを起こす。その時、ドライバー達は・

キャラミ・ストライキ珍道中

(注)この小説は、事実に対しフィクションを混ぜたものです。読者の方々のご理解を、お願い致します。

1982年1月21日、所は南アフリカ、キャラミ・サーキット近くのホテルである。

そのホテルの一室に、フェラーリのピローニ、リジエのラフィー、マクラーレンのラウダらが集まり、何やら話をしている。

「では・・・やるか？」

「おう！」

「やるとも！」

「確かに、最近の奴のやり口には我慢ならん」

「上層部の暴走を止めるのだ！」

「よし、決まりだ！明日の7時に、みんなを集めるんだ。そこで、発表をする。抜かりなく行くぞ。」

「では、今回のストライキの成功を目指して、乾杯だ！」

ストライキ？なにやら物騒なことになりそうだ。ちなみに、「奴」というのはバーニー・エクレストン、F1界のボスである。かなりのやり手であるが、強引なやり口のため、敵も多い。

ともあれ、82年のF1シーズンは、この一件で幕を開けることになる。

翌朝・・・

ドライバーたちは、一様にホテルの大広間に集合した。

「こんな朝っぱらから、何の話だよ。」

「どうせ、ミーティングだろ。」

「でも、何もこんな早くにやらなくても・・・」

ドライバーたちが雑談をしていると、GPDA会長・ピローニがやってきた。

「えー、みなさん。今回ここに集まってもらったのは、ミーティングのためではありません。ストライキの会議のためです！」

「なんだって！」 「ストライキー!？」

「そうです。理由は、我々ドライバーに対する弾圧と、上層部の不正に対する抗議です。」

「すんませーん、イマイチピンと来ないんですが。」

「つまり、上層部が、私たちに対して力で押さえつける、言わば独裁政治を行っている手段をとっていること、そして、この事について不満を言った者はレーヌ資格を奪うという暴政に対するの抵抗ということだ」

「そいつはひでーな。じゃあ、俺もその話、乗らせてもらおうわ。」

口を開いたのはネルソン・ピケ。奔放な性格で、たびたび他のドライバーにたいして「口撃」を行っている。

実は彼は、先のシーズンのチャンピオンであり、先ほど話したバーニー・エクレストンのチーム・ブラバムでエントリーしているが、ピケも彼のやり口に

疑念を持っている者の一人であった。

「ありがとう、ネルソン。では、ストライキに賛同の人、拳手！」

実に、20数人程が手を挙げた。

「では、ここをストライキの本部とします。何か動きがあった場合は、すぐに言いに来るように」

「ヘーイ。わかりました。」 「それでは、後でもう一回賛同メンバーの確認を行いますので、ニキ（ラウダ）の部屋に来るように。時刻は・・・15時30分です。」

「オツケー、15時30分だな。しかし、ワクワクするな。俺たち

でストライキだなんて」

「遊んでるんじゃないんだぞ。これは、俺たちの自由を賭けた、バーニー達との駆け引きなんだ。」

「駆け引き」とはいえ、ドライバー一同には、まだ旅行に行く前のような、少し浮かれた気分が漂っていた。

ドライバー達は、とりあえず今日は休日ということになる。バレないように変装して、外に食べ物を買に行く者や、

暇な者は親しいドライバーを訪ねて、雑談をしたり。

ところでピケの部屋では、もし今日の予選が通常通り行われていたならば、誰がポールを取ったか予想するということもやっていた。

「ところでさあ、普通に予選がやってたら、誰がポールとってたかなあ」

「ルネ（アルヌー）じゃない？あいつあ速いし、ルノーターボも良いし、ここは高速サーキットだし」

「いや、俺はブラバムのどっちかだと思ったけど。リカルド（パトレーゼ）はアロウズでポール取ったし、ネルソンもいいドライバーだし」

「このお、照れるじゃないかあー」「そういうネルソンは、誰が取ると思ってたの？」

「やっぱ、俺！って言うのはおいといて、俺はアラン（プロスト）だと思っけどなあ。凄く速いし、凄く成長してるし」

そこへ、また一人ドライバーがやってきた。フェラーリのジル・ヴィルヌーヴである。

「何だあ、興味があつたから聞いてみれば、俺の名前が一向に挙がらないじゃないか」

ヴィルヌーヴは少しガツカリした表情で言った。

「何だよ、立ち聞きしてたのか。仕方ないだろ。あのへばマシンから1年しかないのに、とてもポールを争えるほどに良くなつてるとは思えない」

「まあ、そうだけど・・・」

「それに、万一ポールだったとしても、レースではたいがいポッシュらすだろ！」

「何だつて〜〜！」ヴィルヌーヴは怒って、ピケを追っかけまわした。

何か気楽な雰囲気が漂う中、いよいよストライキが幕を開けた。

果たして、結果はいかに・・・

キャラミ・ストライキ珍道中（後書き）

F1小説4作目になります。「heavens formula」
よりは

短編です。それでは、これからも頑張ります！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0382h/>

1982年1月22日

2010年10月10日22時33分発行